



野外観察園のノカンゾウ

名古屋大学博物館友の会

NUM 友の会ニュースレター

NO. 52

2018年10月4日発行

名古屋大学博物館コンサートウィーク

野崎ますみ

今回は初の試みで4日間続けてのコンサートを開催しました。

9月18日(火)は、「イタリア歌曲の歴史」と題し、井原義則さんと井原妙子さんがバロックから現代までの歌曲をたっぷりと歌い上げました。

続く19日(水)はGrupo SAYA Andesによるフォルクローレで、どこか懐かしい曲をケーナやチャランゴ、サンポーニャなどを使い軽快に楽しく演奏しました。

20日(木)は、高井杏梨さんによるシャンソンでした。新人らしい初々しさが漂うシャンソンでしたが、それに合わせたピアノの山梨晴哉さんは、なんと大学1年生、トークも演奏も素晴らしく、若者らしく軽妙なアレンジを聞かせてくれました。

21日(金)の最終日は、笈孝也、大西宣人、妹尾寛子さんのフルート3重奏です。さすが、それぞれプロで活躍していることだけはあって、圧巻の演奏でした。また、木管楽器のフルートも材質は様々と言うことも知り、笈さんの18Kのフルートは値段もさることながら、さぞや重たいだろうと想像もしました。

さて、ここ何年ものあいだ博物館コンサートを企画してきました野崎ますみですが、9月をもって退職いたしました。今後は後任の梅村綾子さんが引き継ぎ、今まで以上に盛り立ててくれると思います。次回のコンサートは未定ですが、皆さんどうぞ楽しみにお待ち下さい。今後とも名古屋大学博物館をよろしくお願いいたします。



浅見コレクションの紹介

島岡 眞

浅見コレクションとは、浅見汎氏が長年のアジア旅行のなかで収集してきた民間芸術関係の7,000点余に及ぶ図書を含む実物資料群です。浅見氏は現役の高校教師の時代から、中国、ネパール、インドネシア、タイ、インド、パキスタン、アフガンなどを訪れています。現在では海外旅行も手軽ですが、1970年代から進めて来た氏の旅行は大変な困難の中で実行されたと思われます。

氏の収集品を博物館へ寄贈の話があったのが2004年。数回に亘って搬入することになります。この大量の資料の整理に取り掛かったのは、同年から文学部大学院で民俗学を専攻していた佐藤純子さんに依頼したのが始まりです。佐藤さんによって資料の仕分け、解説、形状測定、裏あて等による保管整理が進められ、それらは現在の分野ごとのリストの原型として作成されました。

私がお後を継ぐ形で関わったのが2017年からです。幾つかの積み残し分野の整理と、作成されていたリストを追補・完成させ、インターネットでの公開準備をすることが小生の仕事でした。

このコレクションの一番の特色は、これらの現物資料を解説する1,000点もの書籍がそれぞれの言語や英語、日本語で準備されていることです。これらの書籍はコレクション最初に、資料群別に分類されています。国内の大学図書館にも収蔵されていない貴重なものが多数あります。

簡単な資料紹介をしますと、まず中国関係では年画、拓本、紙馬、剪紙、蔵書票等です。新春（旧暦）を祝う年画は既に何度か展示会をしています。紙馬は民間祭祀用に作成された神像の版画です。神々の使いとしての馬に託されたものです。これも展示会を開催しています。剪紙は伝統的な民間切り絵細工です（写真の上段左）。インド関係ではヒンディー諸神の宗教画や塑像、独特なミティラー絵画や土着信仰画があります。ネパールを主とした曼荼羅図（写真中段）、タイの神々拓本・切り絵、インドネシアのバリ布絵やワヤン（写真下段）など様々な民間芸術の集合です。概要は資料一覧で分かります。

コレクションの詳細は博物館ウェブページの＜収蔵資料＞中の＜歴史資料・文書記録など＞を開

き、＜意匠文化データベース＞の一部としての「アジア民間芸術関係資料」をご覧ください。

www.num.nagoya-u.ac.jp



友の会「自然誌サークル」を立ち上げます

足立 守

昨年から延び延びになっていた「名古屋大学博物館友の会自然誌サークル」の活動をこの秋から始めます。「自然誌サークル」では、自然に親しみながら、自然の仕組みやヒトと自然との関わりを考えるウォーキングが中心になります。

「自然誌サークル」活動を始める前に、一度、活動の進め方、どんなところに出かけたいか、何を見るか、ウォーキングの頻度、歩く距離、都合のいい曜日などについて、自然誌に興味のあるメンバーで意見交換をしたいと思います。興味とお時間のある方はご参集ください。

日時：2018年11月10日（土）10：30～12：00

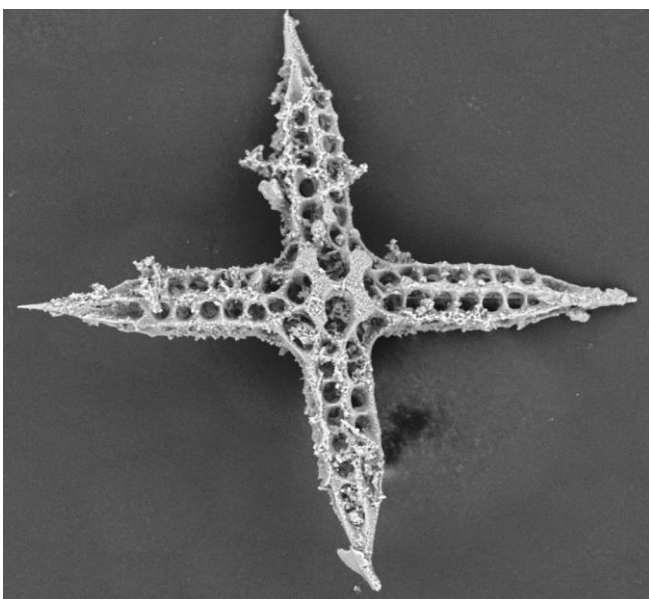
場所：博物館実験室

シリーズ Artist Earth (3) 放射虫化石

足立 守

写真はテトラディトリマという名前のジュラ紀の放射虫（ラジオリリア、Radiolaria）です。この化石は約1億7000万年前の海で堆積したマンガノジュールという珍しい石から見つかったものです。岐阜県鷺沼の木曾川河床には、保存状態が抜群の放射虫化石をたくさん含むマンガノジュールが見られるので、毎年、多くの研究者・学生・自然愛好家が見学に訪れています。原生動物の放射虫（プランクトンの仲間）は、ドイツの生物学者・解剖学者のヘッケル（Ernst Haeckel, 1834-1919）によって最初に研究されました。ヘッケルは放射虫の形の美しさに感動して研究を始めたと言われ、その精緻なスケッチは *Kunstformen der Natur* (1904年) という本（和訳、戸田裕之：生物の驚異的な形）に数多く掲載されています。Kunst というドイツ語は芸術という意味なので、「自然界の芸術的な形」という訳が原文に近いと思います。自然が好きで自然をよく観察したヘッケルならではのネーミングで、彼が Artist Earth と同じような考えだったことを物語っています。

「ミクロの探検隊®」（2012年に商標登録）は、博物館コンサートとともに名古屋大学博物館の看板イベントです。これは電子顕微鏡を使った子供向けの自然観察プログラムで、野崎ますみ研究員が2007年から始めたものです。写真の放射虫は、「ミクロの探検隊」に参加した小学生が“手裏剣みたい！”と言って撮影したものです。



ジュラ紀中期の放射虫 *Tetraditryma* sp.
(サイズは約0.3mm)

ギャラリートーク報告

藤原慎一

2018年8月3日（金）13:00～に、カニやヤドカリのハサミの仕組みと機能の多様性を紹介した特別展「カニコレ'18～カニのハサミは使いよう～」のギャラリートークを行い、8名の友の会会員にご参加いただきました。

まず、展示の冒頭に並ぶ、主役級のカニたちを紹介し、ハサミのカタチの多様性を眺めていただきました。次に、カニの学名の意味を解説しましたが、名は体を表すような特徴をよく表現するもの、名前負けしているものなど、学名の意味を知ること、カニを眺めてみる楽しみを共有しました。また、カニのハサミの動きのメカニズムを解説しましたが、皆さんがカニを食べるときの記憶を呼び起こしてもらいながら、カニの身の中にある腱を動かすと、脚の関節が動くことを解説しました。カニの身を食るときは、是非、腱を引っ張って、ハサミを動かしてみましょ。また、カニのハサミの形が、ハサミの力強さや壊れにくさを反映すること、カニがハサミの形を変えることで、食性の多様化をもたらしてきたことを解説しました。

最後に、展示されている中で、一番カッコいい、ないし、面白いと思ったカニのハサミに投票していただきました。展示期間中、こうした人気投票を第一回～第三回まで行っています。傾向として、大きいハサミをもつカニ、あるいは、食べられる美味しそうなカニに人気が集まっています。参加していただいた皆様にギャラリートークを楽しんでいただけたのであれば、幸いです。

シャンソン講座 活動報告

9月22日に、今池のパラダイスカフェで開催されたシャンソンの小さな演奏会（プチ・コンサート）に出演しました。シャンソン講座では、毎年3月に博物館講義室でミニ発表会を行っていますが、もう少し本格的な演奏会で歌ってみたい、という受講生からの要望もあり、実現しました。

当日はとても緊張して、ステージの上では足がふるえましたが、プロの歌手になったような気分です。スポットライトをあびて歌い、あたたかい拍手をいただきました。とても充実したひとときでした。

ミニ発表会にも是非おいでください。

シャンソン講座ミニ発表会
2019年3月9日（土）11:00～12:00
博物館講義室にて

野外観察園 2018 秋

吉野奈津子

あの猛暑はどこへやら。急に涼しくなりましたね。暑くてひと休みしていた植物たちも活動を始めました。ノカンゾウ、ヒガンバナ、ゲンノショウコなど、ちらほらと花も咲いています。

今回の原稿のネタ探しに観察園内を一回り。雨が降って気温も下がったので体育館裏のどんぐりの小道にはキノコが出ています。ニオイワチチタケは通るだけで（図鑑曰くカレーのにおいだそう）すぐ分かります（写真1）。色々観察できるのですが、直径10cm以上の大きなキノコ2種が特にたくさん出て目立ちました。落ち葉を持ち上げて生えてくるので、地面が盛り上がっているところは要注意です。大規模に盛り上がっている場所を発見（写真2）、そっと落ち葉をどけてみました。出てくる、出てくる・・・数えたら62本。想像以上に多くて写真に入りきれませんでした（写真3）。ベニタケ科のキノコの1種のようなのです。これが食べられるキノコだったら・・・と思うのは私だけでしょうか、もしも同じことを考えたお方がいらっしゃいましたら、自己判断は大変危険ですのでお止めください。きちんとキノコの専門家に見てもらいましょう。

観察園でも10月20日（土）にキノコの鑑定会を行いますのでぜひお越しください。



1



2

落ち葉を取り除いたら・・・



3



野外観察園 キノコの鑑定会

10月20日（土）13時～15時

講師：中條長昭氏（日本菌学会会員）

会場：野外観察園セミナーハウス2階

鑑定にはキノコ実物をお持ちください。

名古屋大学博物館友の会 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学博物館 気付
電話：052-789-5767（博物館事務室） F A X : 052-789-5896（博物館事務室）
Eメール：jimu@num.nagoya-u.ac.jp アクセス：地下鉄名城線「名古屋大学」下車 2番出口

年会費 1000 円（4/1～3/31） 10/1～3/31 に入会した場合は 500 円（次年度は 1000 円）

家族会員制度あり（同居の家族 1 名まで）

<振込先> ゆうちょ銀行 口座番号：00800-8-166807 加入者名：名古屋大学博物館友の会